

合理化内容会員へ周知図る

マニュアル改訂研修開く

会員、賛助会員ら約50人が参加し、合理化ポイントを学んだ。土会の第112回のスキルアップ研修会に位置づけられた。

座学は、坂井市丸岡町熊堂の県産業情報センターで行われ、山川会長が冒頭挨拶。19年の改訂内容を、会員に水平展開する意義を強調した。

講師は、公益財団法人建設技術公社の臼井裕喜氏が務めた。福井県の改訂内容が、国の方針に沿いつつ、特に3大損傷（塩害・アルカリ骨材反応・A・S・R・凍害）に注視した特徴点を紹介。山川会長も講師として、5年に1回の定期点検2巡目の手引きを説明した。

続いて、会員らは、九頭竜川渡河橋の五松橋（コンクリート橋）と、五松橋側道橋（鋼橋）に向かい、点検実習した。士会員が講師役を務める橋梁の点検実習に合わせ、非破壊検査機器を用いた実習にも取り組んだ。非破壊試験は、コンクリート構造物中の配筋状態と、かぶりの測定を、電磁誘導法と電磁波レーダー法を用いて学んだ。コンクリートの中性化試験や、超音波伝播速度測定も行われた。とくに、新入会員の分かりやすさに配慮し、基礎知識や、基本操作を重要視。若手会員の一人は、「非破壊試験も体験的に理解することができた」と、手応えを感じていた。